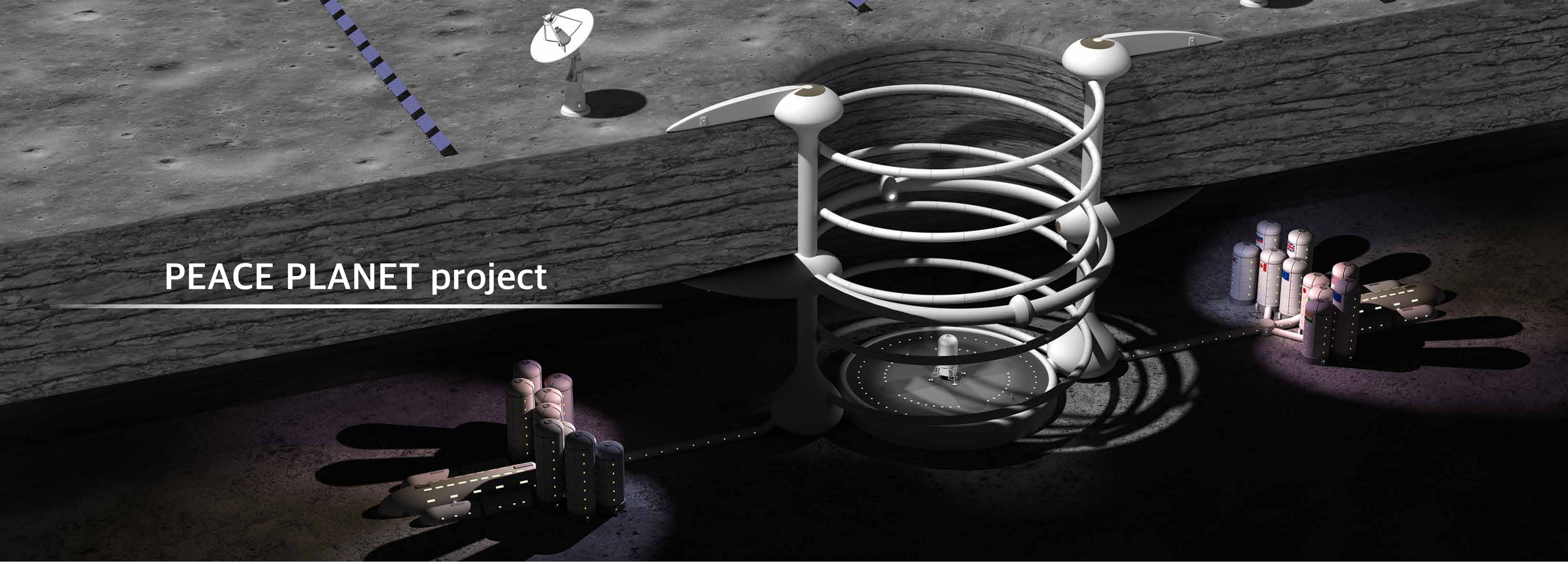
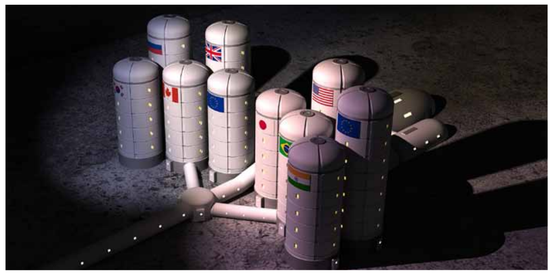
PEACE PLANET project



CONCEPT

世界ではどんなに経済が発展しても、人々の幸せの価値観の違いなどから争いは一向に無くならない。
それを危惧した世界宇宙開発連合は、宗教や民族の歴史観などを超え、平和共存のための課題抽出を主な目的として、月への移住計画「PEACE PLANET project」をスタートさせた。
各国の代表が月で地球を仰ぎながら世界平和構築について日々議論し、その様子は日夜、地球の各国のテレビへインターネット中継される。



▲洞窟内にある各国の世帯の居住モジュール。後ろの菜園モジュールなどにもつながっている。洞窟の中は、宇宙放射線によって塗料の色がなくなる心配が少なくなるため、モジュールの外観には各国の国旗が並ぶ。

建築 PLAN

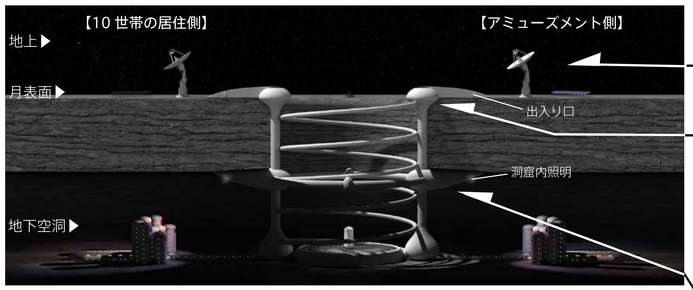
このプロジェクトが始動する前に、月面で人が生活する際の細かな実験は大方実証済みである。この縦孔洞窟に住むために、居住施設の建設が始まった。最初の建設方法は、宇宙船が直接縦孔に着陸しそのモジュールを移動させそのまま居住スペースとする。拡張モジュールは、質量軽減のためインフレータブル構造で作る。これは研究や食料生産のための菜園に使用する。１０世帯が住み始めた後はこれらの施設を拠点に建築を拡大していく。

建築はほぼ左右対称になっており、最初に月に行った１０世帯は普段、右図の施設の左側のみで生活する。もう片側は、片方の設備にトラブルがあった時に使用する。また、それらは普段、一般の宇宙旅行客の宿泊およびアミューズメント施設として解放している。最上階の右側の部屋から孔底に続く螺旋スライダーは人気アトラクションの一つでもある。

なお、スライダーは柔軟性のある素材でできており、支柱などはない。また、研究や居住のモジュールは宇宙船をそのまま利用したものになるが、それ以外の会議室などの建築物はレゴリスに含まれるガラスや金属を抽出した素材を使用して建てられている。

地表には太陽光パネルが並び、施設へ電力を供給する。

左側は最初の１０世帯の居住スペース。立ち並んでいるのは、各国の家族たちの居住空間。宇宙船が横だおしで使用されているのは、菜園や研究のためのモジュール。



※実際は地下施設は地表から見えません　※孔の直径は100m程度を想定（静かの海など）

地球との通信用アンテナ
（故障時に備えて２基）

この部屋は天井に大きな窓があり、地球が見える。
右側は宇宙旅行客に解放されているため、いこいの場として使用される。
対になる左側の部屋は、project のメンバーが、地球を見ながら平和について議論するための会議室である。その様子は地球に放送される。

地表活動中に宇宙天気が悪化した時、放射線から身を守るため急いで避難するための場所。孔のすぐ裏であるため、放射線から身を守る一番近い避難場所になる。

右側は宇宙旅行者の居住スペースとアミューズメントスペース。
左側のモジュールが緊急事態の際の予備としても使用可能。

居住 PLAN

まず最初に世界から１０ヵ国、各１世帯ずつが選ばれ、最初に移住する。彼らは月で日々世界平和について議論し、その様子が地球に放送される。同時に、今後大人数が移住できるような基盤も徐々に整える。地球からの依頼で実験代行なども行うため、様々なプロフェッショナルが揃った家族である。第一世代の住民には地球上の多様な生命のDNAを保存する任務も含まれており、月に定期的に宇宙船が到着するたびにその種類は増え続ける。
生活が落ち着いてきたら、近い未来に新しい家族が地球から移住してくることを見越して、モジュールの追加など、ロボットを利用しながら行っていく。そうして彼らは多人数が暮らしていけるよう、食料生産や空気調整、産業廃棄物処理などをうまく制御しながら生活を築いていくのである。

23 世紀、地球に隕石が衝突

最初 10 世帯から始まった、宇宙船を活用した生活モジュールは増え、人口もある程度の量になった。
ユウトは、この 100 年で月施設に保存され続けた膨大な地球生命の DNA を利用し、方舟プロジェクトを新たに立ち上げた。居住モジュールは 100 年間増え続けたが、使われていないものもあるため、DNA を運ぶための宇宙船として、修理して再使用できそうだ。あとは、ユウトがこれらをいかに有効な形で地球に届け、ビジネスを展開できるかにかかっている・・・。